Feeling excited

“Dance with Heart”
We are burning with enthusiasm
in creating national art for the new era.
The Kikunokai Dance Troupe
Representative : Satoshi Hata

日本のおどり

発行：舞踊集団 菊の会
〒161-0031
東京都新宿区西落合 2-21-23
03-5983-6001（代表）
菊の会京都八瀬研修所
〒601-1254
京都市左京区八瀬野瀬町 10
075-712-8701（代表）
http://www.kikunokai.co.jp

Dancing from the heart

畑 道代師から 畑 聡氏へ バトンタッチ成功



日本民俗芸能協会
会長 西角井 正大

「舞踊集団 菊の会」を創立された尾上菊乃里師に初めてお会いしたのは、昭和45年（1970）の大阪万博の折でした。

“太賜の塔”が立つ”お祭り広場で“日本の祭”を総合プロデュースされていた三隅治雄先生の宿舎で紹介されたわけですが、この時にはまだ「菊の会」は立ち上がっておりませんでしたからこの時には尾上菊乃里師の胸中には「菊の会」の構想が熟していたのでしょう。

発足は翌昭和47年でした。

尾上菊乃里師は日本舞踊尾上流の菊之丞師の内弟子で将来を嘱望されておられましたが、ご本名の畑道代で「菊の会」の会主に就かれました。“尾上菊○○”となれば、舞踊の名人の誉れ高き六世尾上菊五郎に所縁のある名門系ですから「菊」を大事に会の名にしたのでしょう。そこで畑道代師が舞踊の新境地に置いたのが民俗芸能の融合に日本人の真の姿を見て、何処にもない、誰もしなかった新しい舞踊集団を誕生させ、育てたのです。

畑道代師は不幸病をえて、平成28年（2016）には創立45周年を迎えたというのに、悲しいかな七回忌のメモリアル公演を・・・催す仕儀でした。

私が思い出すのは、発足直後の頃の公演のお稽古です。三隅治雄先生の助手のような形でお手伝いさせていただきました。その頃から畑道代師は“仔鹿グループ”の名で少年たちを集い、舞踊だけでなく三味線や鳴り物までと邦楽を学ばせていたのです。その少年たちが今や「菊の会」の男性舞踊家陣の中核になっているわけです。その1人が現代表の畑聡氏です。

実は私ども「日本民俗芸能協会」も昨年創立45周年を迎え、記念誌を刊行し、今年7月4日に記念事業の一環として国立小劇場で公演を持ちました。

私どもの協会は流派やジャンルを超えた舞踊家・音楽家・研究者から構成されていて、畑道代師も会員に加わっていただいておったので、畑聡師が引き継いで会員になっていただいています。そして、協会の記念公演には「菊の会」の団員の方々にもご参加いただきました。演目は畑聡師の構成・演出の「鹿躍幻想」です。

この畑作品は新しい踊り鹿頭を庭元が踊手たちに手渡す神聖な“頭譲りの儀式”をテーマにした作品です。

被り物の鹿頭一つを象徴的に飾ってその前で素踊りの様式で踊るという構想でした。原形の鹿躍りの舞踊様式を踏まえながら美しく整った舞台でした。将に純米大吟醸のような美酒の味わいでした。通常の鹿躍りの扮装をしておりませんから、身体の動きがよく分かりました。扮装をしていては見えない動きがよく見えました。それは大変に興味深いものでした。特に飛んだり跳ねたりの脚の動きや運びが想像以上に複雑なものであることを認識しました。それはおそらくバレエの脚遣いに負けるものでないと思うほどでした。そのことだけでも心地よく酔わせてくれました。

畑道代師の生き方と畑聡師の後継者ぶりの正しいことが如実に証明されている作品でありまた舞台であったと思いました。

こうして平成29年には創立46年目となって次の新たな目標に向かっていくことになるのですが、創立50周年目は畑道代師の13回忌でもあるのです。更なる発展を期待申しております。

ご挨拶



舞踊集団 菊の会
代表 畑 聡

いつも温かいご支援を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

皆様方からのご期待にお応え出来ますよう、これからも更なる努力と新しい展開への挑戦を目指して参ります。どうぞ変わらぬご厚誼を何卒宜しくお願い申し上げます。

恒例の自主公演・アトリエ公演を開催

第20回の節目を迎えた“さつき会”


「よへほ節」

創立者 畑道代が菊の会の次代を担う子供達の為に5月5日子供の日にちなみ発会した。若者達の舞踊会「さつき会」が第20回目として6月24･25日に開催。5歳～大学生まで更には菊の会中堅団員も加わり、3部構成で古典舞踊、狂言舞踊、民謡集と舞踊選集等、菊の会十八番演目を未来を担う子供達が熱演した。これには菊の会の各地域の舞踊教室の生徒も参加した。


「藤 娘」


「恋ざんげ」


「越後獅子」

菊の会自主公演「日本のおどり」

去る6月10日所沢文化センターミューズに於いて、第21回目として恒例の自主公演を開催。

第1部にかつて畑道代が素踊り群舞として振付けた長唄「吉原雀」とタテ師 尾上菊十郎丈の指導による歌舞伎味あふれる長唄「女伊達」、後半では華やかな所作ダテで盛り上げた。続く第2部の「おどり風土記」では、佐渡おけさ、弥三郎節、祝太鼓、八木節等、にぎやかに舞台を飾った。


「吉原雀」


「謙良節」


「弥三郎節」


「女伊達」

INFORMATION

舞踊集団 菊の会創立45周年記念
躍る風譚（おどるかぜものがたり）
◆日程：9月21日（木）14時30分開演
会場：練馬文化センター小ホール（東京都練馬区）

◆舞踊集団 菊の会創立45周年記念
『錦秋に舞う』
日程：10月21日（土）14時30分開演
会場：鹿嶋勤労文化会館（茨城県鹿嶋市）

◆デトロイト美術館
日本ギャラリー リニューアル記念公演
日程：11月1日～8日
会場：デトロイト美術館（アメリカ・ミシガン州デトロイト市）

◆平成29年度文化庁国際芸術交流支援事業
チリ・ペルー公演
日程：11月12日～29日
会場：●ニュニョア区立劇場（チリ・サンティアゴ市）
●アウラマグナ劇場（チリ・バルパライソ市）
●ペルー国立劇場（ペルー・リマ市）
●日秘劇場（ペルー・リマ市）

◆東村山市立中央公民館自主事業
『日本のおどり』
日程：12月2日（土）14時開演
会場：東村山市立中央公民館3階ホール（東京都東村山市）

皆様と共に「日本のこころ」を世界に

4月8・9日菊の会八瀬公演「陽春に舞う」



京都市 市長 門川 大作

貴いお取組を重ねられ、貴会が本年、創立45周年の節目を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。

本年4月、オール京都の悲願であった文化庁の京都への全面的移転に向け、「文化庁地域文化創生本部」が東山に発足しました。私といたしましても、舞踊を通じて日本文化、さらには「日本のこころ」を広く発信しておられる皆様のお力添えをいただきながら、文化の力で日本を元気に、そして世界に貢献していく決意です。皆様の温かい御支援御協力をお願い申し上げます。

結びに、菊の会が来る50周年に向けてますます発展されますこと、並びに会員の皆様の御健勝と御多幸、更なる御活躍を祈念いたします。

満開の桜に彩られた八瀬の地で演じられた夢のようなひととき。日本舞踊の伝統を継承しつつ、独創的な演出と躍動感溢れる現代的な踊りを取り入れた舞台に、私も大きく心を揺さぶられました。目を閉じれば、今もその情景が鮮やかに蘇ってまいります。

会場全体を大きな感動で包んだ舞台「陽春に舞う」を創り上げられた、畑聡代表をはじめ菊の会の皆様に心から敬意を表します。京都御出身の故畑道代先生が中心となり、「舞踊の創造」を目指して貴会を設立されたのが昭和47年のこと。以来、国内のみならず世界中の多くの人々をその素晴らしい踊りで魅了してこられました。さらに、未来を担う子どもたちへの日本文化の継承にも熱心に取り組まれ、全国各地での学校公演を続けておられます。



開演前に門川大作市長と記念撮影



「古都歳時記」



菊の会京都文化交流会館の外観

長野県川上村での文化事業で公演

「原田直之 日本を唄う・菊の会 心を躍る」 2月23日 川上村文化センター



長野県川上村 村長 藤原 忠彦

「原田直之　日本を唄う・菊の会　心を踊る」の公演が本村文化センターにおいて初めて開催されました。原田直之さんの迫力ある歌声による民謡と、日本を代表する舞踊集団「菊の会」のコラボレーションに心を打たれました。

長野県川上村は、県の最東部2000メートル級の山々に囲まれた千曲川の源流に位置し、埼玉県、山梨県、群馬県の3県に隣接しています。

夏の冷涼な気候を活かした高原野菜栽培が盛んであり、レタスの収穫量は日本一であります。産業形態の6割を占める農業は、その生活形態にも特色があり、農業ができる期間は1年のうち約半分であります。この農閑期をどのように過ごすかは人それぞれではありますが、日本舞踊をはじめとする趣味の世界に時間を充てる人が多くいます。

特に日本舞踊への取り組みは盛んであり、そのグループの数は10を超えます。また、様々な芸術文化の公演を農閑期に3～4回行います。今回の公演はもちろん素晴らしく感動の舞台でありましたが、出演者の方自らお客さんを見送る光景は初めて目にしました。こうした本公演にプラスされた皆様のご配慮からか、来場者の感想がたくさん寄せられました。

「毎年菊の会の公演が見たい」や「大変いい公演だったから、別会場にも見に行った」など、今まで実施してきた公演の中でも記憶にないほどの好評ぶりでありました。この公演が住民にとって貴重な思い出として心に残ったことは間違いありません。再びこの川上村の地に皆様が訪れていただくことを強く願います。

結びに、この公演の開催にあたり、ご支援とご協力をいただいた関係者の皆様に深く感謝を申し上げるとともに、日本のおどりが私たちの身近な舞踊芸術として存在し続けるよう皆様のご活躍を期待しつつ、更なるご発展を祈念申し上げます。





藤原村長、川上副村長、そして本公演に御尽力して下さった篠塚 裕氏を囲んでの記念撮影

100都市目となった海外公演!!

In ロサンゼルス

SUA第16回インターナショナルフェスティバルに菊の会が参加



海外公演100都市目となる舞台として毎年行われている開学を祝うイベント「第16回アメリカ創価大学インターナショナルフェスティバル」に出演しました。

同フェスティバルは地元地域と共に平和と文化を祝うイベントとして学生や地元地域の演奏者やパフォーマーが様々な国や文化の演奏やダンスを披露。美しく広大な敷地に整備された大学施設内の創価芸術センターでは同大学の箏曲部と「桜花の縁」でコラボレーションしました。

体育館では日本の民族芸能や和太鼓の演奏などを菊の会のメンバーが披露。「阿波踊り」では学生や地域の方と一緒に踊り、会場は大いに盛り上がりました。





客席には羽吹学長の姿も



創価芸術センターに於いて箏曲部の演奏で「桜花の縁」のコラボレーション





美しいSUA全景と賑わうご来場者

世界的サントゥール奏者・インド古典音楽の第一人者

シヴ・クマール・シャルマ氏によるワークショップ



沙羅双樹京都 代表 井上 春緒

新緑がまぶしい5月初旬の菊の会八瀬文化交流会館で、インド音楽の巨匠、シヴ・クマール・シャルマ氏をお迎えして、百弦琴サントゥールのワークショップを開催させていただきました。

シャルマ氏はインド古典音楽の世界では、「生きる伝説」と呼ばれ、多くの人々から賞賛されている偉大な音楽家です。ある著名なインドの音楽家はシャルマ氏のことを、数百年に一人の天才音楽家として敬意を表しています。それはシャルマ氏が、生まれ故郷カシミールで歌の伴奏楽器として使われていたサントゥールを、古典音楽の世界に持ち込み、一代で新しい音楽スタイルを確立した先駆者であったからです。

5月3日から7日の5日間、午前と夕方に行われた今回のワークショップには、総勢5名の弟子が揃いました。シャルマ氏の教えを受けるため、ロサンジェルスや、岡山や東京などそれぞれ遠方から集まり、真剣に稽古を受けていました。インド音楽の稽古は基本的に全てが口伝です。何も書かれていないところから立ち現れるシャルマ氏の歌うフレーズをそれぞれが聴き取って、サントゥールで演奏し、習得していきます。シャルマ氏は自らの音楽はエンターテイメントではなく、深い内面から浮かび上がってくるものであるといいます。清涼とした菊の会の会場の広間にシャルマ氏によって紡ぎ出されていく美しい旋律を、弟子たちが懸命に追っていき、自分のものにしていく様子は、まさに師匠と弟子たちとの音を通しての心のふれあいを見ているようでした。

最後に、日本の伝統舞踊の世界において、シャルマ氏と同様に先駆者でありつづけた畑道代師匠の芸を継承する菊の会様に、今回のワークショップの会場をご提供していただいたことを心から感謝したいと思います。



ワークショップの様子



シヴ・クマール・シャルマ氏